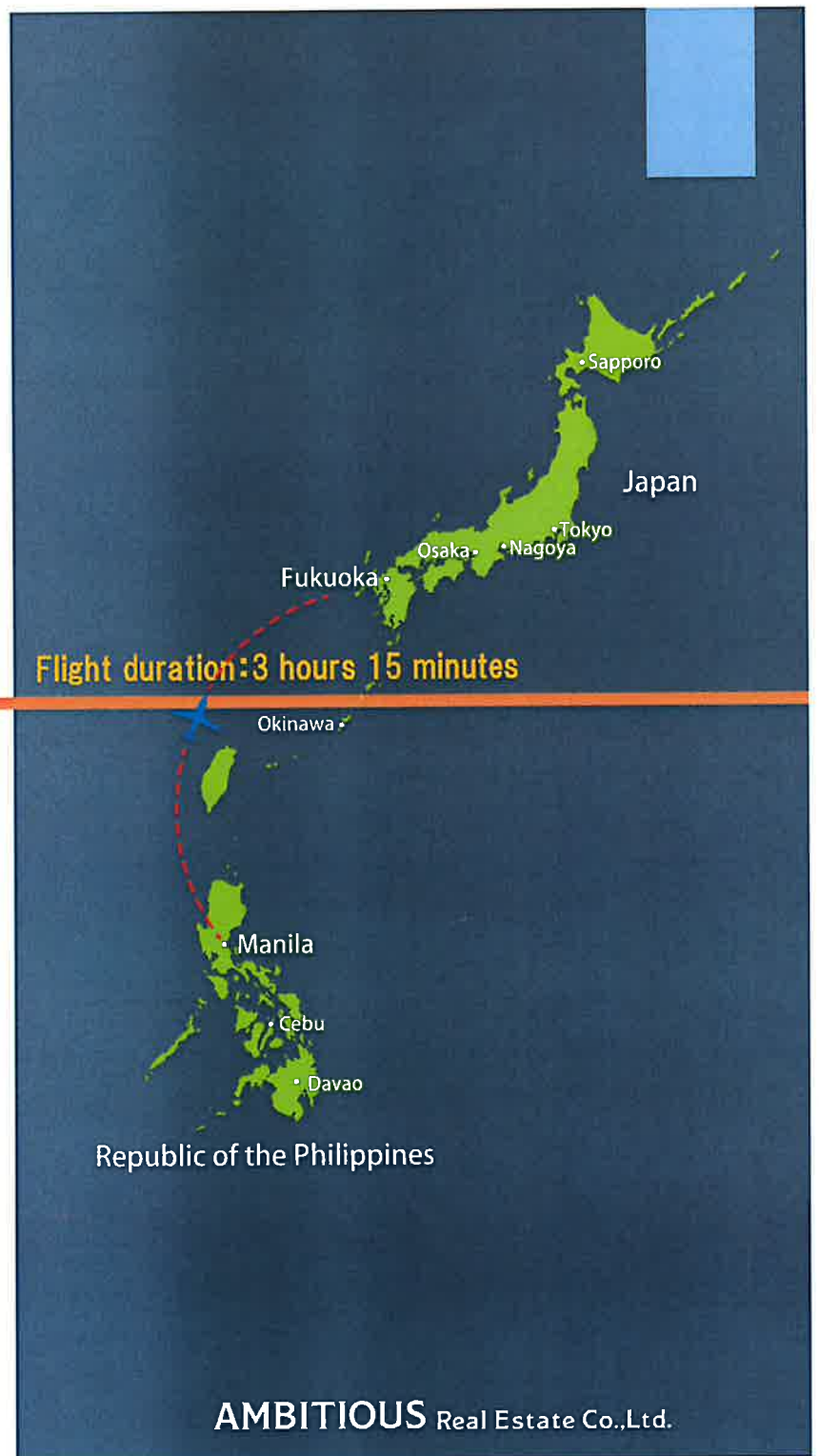


## フィリピン共和国と日本の比較



## ■フィリピン基本情報



正式国名：フィリピン共和国（Republic of the Philippines）

- 国旗** フィリピンの国旗の4つの色は、青は高潔な理想、赤は国民の勇気を、白は平和と平等を意味し、太陽は自由を、三つの星はルソン島・ミンダナオ島・ビサヤ島を象徴する。太陽から伸びる8条の光は、フィリピン独立革命の際、スペインに対して最初に武器をとったルソン島の所在の8州を表している。
- 面積** 約30万平方キロメートル（日本の約8割）、7,109の島々が点在。
- 人口** 約1億1416万人（2024年3月現在）
- 首都** マニラ
- 政体** 共和制
- 元首** フェルディナンド・マルコス大統領
- 議会** 元老院と代議院の両院制（250議席以下）
- 民族** マレー系が主体で、他に中国系、スペイン系、さらにこれらとの混血や少数民族がいる。
- 宗教** キリスト教83%がカトリック、その他のキリスト教が10%、イスラム教は5%、ミンダナオではイスラム教徒が人口の2割以上となっている。
- 産業** 農林水産業、サービス業（コールセンター事業等のビジネス・プロセス・アウトソーシング（BPO）産業など）
- 通貨** 1ペソ=約2.6円（2024年10月現在）

# 01 住宅事情

## PHILIPPINES

### 650万戸の不足

中低所得者向けの住宅不足が顕著であり、CB造が主流で構造的にも脆弱で台風や洪水、火災などにより毎年数十万戸消失。2023年現在650万戸が不足し、住宅購入層が2030年に3960万人、2045年には4290万人となり、このままではさらに住宅不足が加速と予測されている。政府や業界団体もアフォーダブルハウジングを推奨しており、320万戸（約800万円）以下の住宅はVAT税が不要（日本でいう消費税）。

Table A. Number of Housing Units Damaged by Major Calamities 2010-2015

CALAMITIES	TOTALLY DAMAGED	PARTIALLY DAMAGED	TOTAL
Bohol Earthquake	14,480	57,405	71,885
Typhoon Ondoy	27,602	189,920	217,522
Typhoon Pablo	89,666	127,151	216,817
Typhoon Sendong	13,585	37,559	51,144
Typhoon Agaton	838	1,328	2,166
Typhoon Yolanda	550,928	589,504	1,140,332
Typhoon Glenda	27,874	83,498	111,372
<b>TOTAL</b>	<b>724,973</b>	<b>1,086,365</b>	<b>1,811,338</b>

Source: HUDCC

\*フィリピンにおける自然災害による住家被害戸数  
(出典：住宅金融支援機構調査報告書より抜粋)

\*アフォーダブルハウジングとは「手ごろな価格・品質の良い住宅」として、世界の様々な国や都市で取り組みが進められているSDGsのゴール11「住み続けられるまちづくり」の達成でも一役を果たしています。

## JAPAN

### 900万戸の空き家、空家率13.8%

2024年の住宅土地統計調査によると、総住宅数は6502万戸と1983年より3~9%毎年前年比より増加している。空家数は900万戸、13.8%と増加傾向にある。賃貸用の空き家だけを取り上げると埼玉神奈川、滋賀、福岡、沖縄など前回の調査より下がっている都市もある。



(資料：総務省「平成30年住宅・土地統計調査」より抜粋)

# 02 総人口

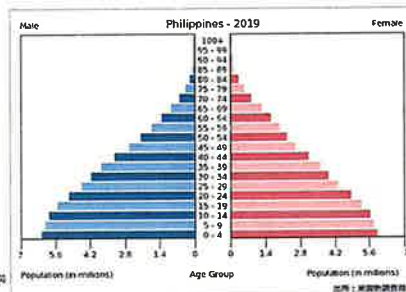
## PHILIPPINES

### 2030年1億2500万人、40年1億3800万人

2028年前後には日本の人口を超え、世界13位へ。平均年齢が24歳と今後人口ボーナスの恩恵を受け、人口増加は2062年まで続くと予想されている。

因みにElon Musk氏がXにて「パンデミック中に人口減が加速している」と題し2015年から23年までの人口増減を国ごとのデータをアップしたが、フィリピンが6.7%の増加と増加率で世界有数になった。

フィリピンの人口推移と将来予測 (万人)

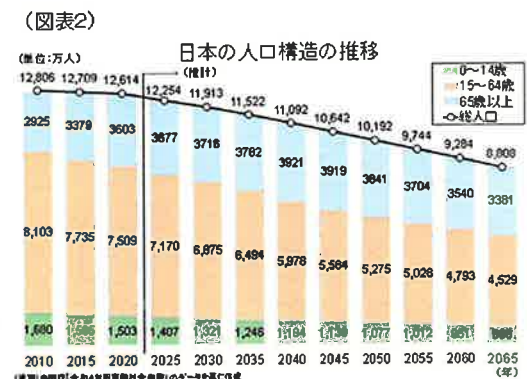


(資料：米国内務省調査局国際データベース)

## JAPAN

### 2030年1億1662万人、40年1億728万人

2008年をピークに減少へ転じ、14歳以下人口は1982年から連続減少しているため、生産年齢人口が2030年には6773万人となり国民の2人に1人が非生産人口となり、労働力不足と現役世代への税への負荷が加速すると予想される。平均年齢も48歳と世界に類のない超高齢化社会へ突入した。



(資料：内閣府「令和4年高齢社会白書」を基に作成)

### 03 GDP成長率と平均世帯所得

#### PHILIPPINES

#### 5～7%の成長を維持し、所得はGDP以上増加中

GDP成長率は2022年7.6%、23年5.6%、24年6.0%の予想。

2023年の平均世帯所得は35.3万ペソ（約92万円）、2021年比15%増。マニラ首都圏では51.3万ペソ（約134万円）、21年比22.9%増となっている。



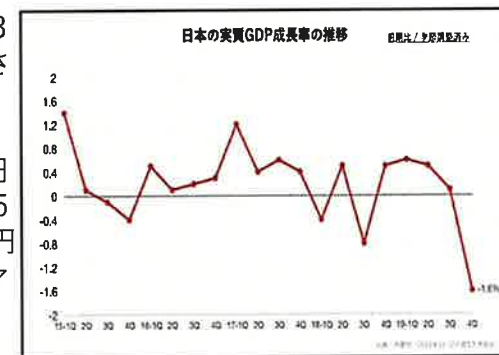
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成 (資料: 第一生命経済研究所資料)

#### JAPAN

#### 1%前後の成長、所得は3%以上のマイナス

GDP成長率は2022年1.1%、23年1.2%、24年1%前後が予想されている。

平均世帯所得は2020年564万円（19年データなし）、21年545万円（-3.3%）、22年524万円（-3.9%）と毎年3%以上のマイナスとなっている。



(資料: 内閣府2019年10-12月第1次速報値)

### 04 格付け

#### PHILIPPINES

#### ムーディーズ「Baa2」 R&I「A-」

2010年代からフィリピン経済の成長率は、ASEANの中でもベトナムとトップを争うほど高まり、それを受け順調に格付けも上がっていき、安定的と判断されるようになった。

#### JAPAN

#### ムーディーズ「A1」 R&I「AA+」

振り向けば東南アジアの開発途上国、横を見れば韓国、前を見れば台湾、遠く彼方にシンガポールというように格付けが下がった。それに加え、先進国ではイタリアに次ぎ下位から2番目となった。

#### ■フィリピン共和国と日本の信用格付け比較 (Credit Rating)

	Moody's	S&P	Fitch	R&I
Philippines	<b>Baa2</b> (stable, 2024)	<b>BBB+</b> (stable, 2019)	<b>BBB</b> (2020)	<b>A-</b> (安定的, 2024)
日本	<b>A1</b> (stable, 2023)	<b>A+</b> (stable, 2020)	<b>A</b> (2020)	<b>AA+</b> (安定的, 2023)

## 05 首都圏の人口と人口密度(2020年データ)

### PHILIPPINES

#### マニラ首都圏

人口：1348万人

面積：636km<sup>2</sup>

人口密度：21,195人

1990年の795万人、2015年に1280万人、2030年には1390～1400万人に達すると予想されている。

	人口	面積	人口密度
municipality	千人	km <sup>2</sup>	千人/km <sup>2</sup>
Quezon City	2936.1	165.3	18
City of Manila	1780.1	42.9	42
Caloocan	1584.0	53.3	30
Taguig	804.9	45.2	18
Pasig	755.3	31.5	24
Parañaque	664.8	47.3	14
Valenzuela	620.4	45.8	14
Las Piñas	588.9	32.0	18
Makati	582.6	27.4	27
Muntinlupa	504.5	41.7	12
Marikina	450.7	22.6	20
Pasay	416.5	18.6	23
Mandaluyong	386.3	11.1	35
Malabon	365.5	16.0	23
Navotas	249.5	11.5	22
San Juan	122.2	5.9	21
Pateros	63.8	1.8	36
<b>TOTAL</b>	<b>12876.3</b>	<b>619.7</b>	

### JAPAN

#### 東京23区

人口：948万人

面積：627km<sup>2</sup>

人口密度：15,130人

2015年に927万人、2035年の976万人をピークにその後微減していくと予想されている。



\*総務省による調査より抜粋

## 06 ビジネス英語ランキング

### PHILIPPINES

#### 20位 578点

タガログ語と英語が公用語とされ、ポーランドやスイスなどのヨーロッパ諸国と肩を並べている。

### JAPAN

#### 87位 457点

世界113位中87位。  
アジア23位中15位。  
スコアも2011年510点台から年々下落しており、世界平均493点を大きく下回っている。  
文法や単語に重きを置き試験には強いが、話せない、話すのが恥ずかしい。留学をしてまで語学を学ぶという生徒が韓国や中国と比較しても低い。

世界ランキング EF英語標準テスト2022年より、220万人以上の受験者データ

非常に高い	高い	中等的	低い	非常に低い
1 オランダ	13 ポーランド	31 ノンジュス	64 パキスタン	92 パレスチナ
2 シンガポール	14 フランス	32 ジョージア	65 レバノン	93 ウズベキスタン
3 オーストリア	15 ルーマニア	33 ベラルーシ	66 トルコ	94 カタール
4 デンマーク	16 ブルガリア	34 ガーナ	67 米国	95 日本
5 ルクセンブルク	17 ハンガリー	35 スウェーデン	68 台湾	96 韓国
6 スウェーデン	18 スロバキア	36 インドネシア	69 中国	97 スーダン
7 ベルギー	19 ケニア	37 モルディブ	70 ブラジル	98 カンボジア
8 ベルギー	20 アルバニア	38 コスタリカ	71 アラブ首長国連邦	99 ハイチ
9 南アフリカ	21 リトアニア	39 ウルグアイ	72 パナマ	100 ケマロン
10 ドイツ	22 ルタナンブルク	40 ボリビア	73 モンゴル	101 アンゴラ
11 クロアチア	23 エストニア	41 中国	74 カタール	102 タイ
12 オランダ	24 北マリアナ	42 ロシア	75 コロンビア	103 ベトナム
	25 北マリアナ	43 キューバ	76 コロンビア	104 カザフスタン
	26 チェコ共和国	44 フランス	77 アルジェリア	105 シリア
	27 ナイジェリア	45 ウクライナ	78 マダガスカル	106 イタリ
	28 アルバニア	46 ベルギー	79 インドネシア	107 コートジボワール
	29 香港特別行政区	47 ウルグアイ	80 エクアドル	108 サウジアラビア
	30 スイス	48 アルメニア	81 シリア	109 ルワンダ
		49 韓国	82 中国	110 リビア
		50 エルサルバドル	83 アゼルバイジャン	111 イエメン
		51 ベルギー	84 アゼルバイジャン	112 カザフスタン
		52 ナリ	85 エジプト	113 コンゴ民主共和国
		53 グアテマラ	86 マラウイ	
		54 イスラエル		
		55 ドミニカ共和国		
		56 ベネズエラ	87 日本	
		57 ベルギー	88 アフガニスタン	
		58 イラン	89 米ネパ	
		59 ベトナム	90 米ネパ	
		60 パンダラシヨ	91 米ネパ	
		61 インド	92 米ネパ	
		62 ニカラグア	93 米ネパ	
		63 チュニジア	94 米ネパ	

(世界220万人以上が受験したEF英語標準テスト2022年のデータより)